

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和6年度第5回 相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和6年8月19日(月) 午後6時から午後8時まで		
開催場所		けやき会館 2階 職員研修所 大研修室		
出席者	委員	12人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	18人(こども・若者政策課長ほか17人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1)「(仮称)次期相模原市子ども応援プラン」について ア 成果指標(案)について イ 掲載事業及び「主な取組」について ウ 計画書素案について 3 閉 会		

1 開会

片山会長の挨拶の後、次第に沿って進行された。

2 議題

(仮称)次期相模原市子ども応援プラン ア 成果指標(案)について、資料1を基に事務局より説明をした。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(朝比奈委員) 全体的に前回会議の意見が反映・考慮されていると感じる。基本目標1 成果指標1については良いと思う。成果指標2はこども大綱から引用していると思うが、基準値が20%に対して目標値70%と非常に高い。成果指標1が年3%増加とかなりの差があるため、調整したほうが良いのでは。

基本目標2の成果指標について、人材確保に修正されたのが良いと感じる。保育の質の向上を数値化するのが困難であることは承知しているが、ノンコンタクトタイムの確保、園内研修推進コーディネーター等育成に係る試みは保育の質の向上につながるため、成果指標とは別に記載していただきたい。

(事務局) 基本目標1 成果指標2について、70%は国の目標値であるため、本市としてこれより目標値を下げることはできない。成果指標2の目標値については再検討する。ノンコンタクトタイム等成果指標に設定されていない部分については、巻末の事業一覧表に掲載する予定である。

(石井委員) 基本目標9の説明1～6については承知しているが、ベビーシッターやボランティア等説明で取り上げられていない。その他団体等の数値が考慮されていないため、拾えるようにしていただきたい。また、基本目標4 成果指標1について、「明るい」という表現が気になるがどうか。

(事務局) 説明部分については、なるべく多くの団体等の数値を把握することが重要であると考えため、把握方法など含め確認する。また、「明るい」と表現していることについては、こども大綱から引用している。

(野口委員) 基本目標9 成果指標1の基準値の積算方法を伺いたい。

(事務局) 説明に記載されている6つの項目について、それぞれ団体、個人、店舗数の合算で算出している。

(野口委員) 団体の中の人数を把握するのは可能か。団体数と団体に所属する人数とでは数値に大きな差が生じる。

(事務局) 団体に所属する人数を基準値に反映できるか確認する。

(朝比奈委員) 成果指標の内訳を伺いたい。6つの項目に係る合計値ではなく各項目について目標値を設定した方が良いのでは。

(事務局) すぐに内訳を提示できないため確認する。また、目標値の設定方法は再検討する。

(三浦委員) 基本目標 2 成果指標 1 について、養成校から保育園に就職する場合もあるが、年度途中における人材確保も想定としてある。養成校からと制限した理由はあるのか。また、他市養成校等から相模原市の保育園へ就職する場合、人材確保という点は良いが、保育の質について確保されているのか疑問である。

(事務局) 基本的に、成果指標は本市の施策に対する結果を計るものであるため、このような設定をしている。

現在、市内に 2 つの養成校があり、人材確保の観点から調査を行った。結果、令和 5 年度の入学者が定員に対して約 8 割、今年度は約 7 割となっていることが判明した。また、卒業した学生の幼稚園教諭免許や保育士免許の取得率が年々減少している状況である。

昨年度から保育士の人材確保をするため、保育士の魅力を学生に伝えるべく、市内保育園などに協力をいただき 93 人の高校生が市内 50 園で実体験した。学生からは就職するにあたり給料や保育環境など現実的な質問があり、市としては、処遇改善のため、宿舍の借り上げや賃金の補助支援を行っているが、八王子・東京に比べ額が追いついていないことが課題と感じている。

(朝比奈委員) 処遇改善を行うことは良いと思うが、なぜ他市へ保育人材が流出しているのかについて、養成校や学生を含め直接リサーチして具体的な対応をしていただきたい。

基本目標 2 成果指標 2 について、基準値が 88.1% とかなり高い数値だが、幼稚園や保育園など何らかの保育施設を利用している割合なのか。また何に対する満足度なのかが分からない。

(事務局) 基準値に対する質問の回答者の内訳がすぐにお答えできないが、満足度については保育の種類についてである。

(朝比奈委員) 指標自体に反対しているわけではないが、内訳が分からないと目標の設定ができない。種類を増やしていくことも一つの手法だが、保育の質が向上しないと満足度に繋がらないと考える。目標値について、どういう形で向上させていくのか次回で説明いただきたい。

(事務局) 目標値については、保育の質ではなくメニューの豊富さについての満足度を聞いているものである。

(石井委員) 満足度については、サービスの種類だけではなく、保育の質そのものに影響すると考える。

(片山会長) 基本目標 10 について、前回から成果指標が変更となり決めたいがいかがか。

(事務局) 交通事故については、市の施策として交通安全を図るため交差点に立っていただく、交通安全協会に学校で交通安全の授業をしていただくなど、交通事故が起きないように、子どもが被害に遭わないような施策を行っている。施策の効果が発揮されれば、交通事故件数が減るため成果指標にしている。

刑法犯については、子どもが被害者になる刑法犯の数値が取れば一番良いが、数値がないためこれを提示している。

(笹嶺委員) 安全対策については、交通事故だけでなく不審者等も考える必要がある。見守り隊の人数の増加も成果指標になると考えるがいかがか。

(事務局) 成果指標になるかについては確認するが、見守り隊は犯罪抑止の内容であると考え。本日は取り組みの方向として交通事故又は犯罪のどちらかに決めていただけると助かる。

(石井委員) どちらかに決めなければいけないという気持ちはよくわかるが、安全か安心かは時代とともに考え方が変化しており、数値で比べるのは困難だと考える。

(事務局) 犯罪から子どもを守るという視点で、今回新たに成果指標として刑法犯認知件数を提示した。他の代替案があれば伺いたい。

(安西委員) 児童クラブでも注視しているのは交通事故件数である。数値は分かりやすく明確である。逆に刑法は大人の件数も含まれているため、本プランに不向きと考える。

(笹嶺委員) 犯罪件数については、子どもが守られたかということを経験とすると数値が計りにくいため、交通事故件数が良いと考える。交通事故の部分では見守り隊の人数を数値として計ることができるため、成果指標に良いと考える。

(布施委員) 犯罪件数を市民が見たときに衝撃があると思うため、交通事故件数が良いと考える。安心・安全に暮らせるという点では児童虐待の件数減少も成果指標になりうると思うがいかがか。

(事務局) 虐待については他の項目で目標になると考える。基本目標 10 については、あくまでも事故、犯罪、災害から守るという安全・安心なまちづくりという視点で考えたい。

(野口委員) 当初は交通事故を成果指標として考えていたが、見守り隊の数が把握できるのであれば、そちらの方が良いのでは。

(事務局) 見守り隊の数について、一部は把握しているが、市全体として把握できるかが分からないため確認する。

(馬場委員) 見守り隊については、民生委員も学校から声をかけてもらい登下校時に協力しているため、声かけすれば集約はできると考える。刑法犯については、相模原市内でこんなにも多くの犯罪があるのかと不安にさせる可能性がある。

(田川委員) 見守り隊は自分の子ども以外にも注意をするため、保護者として認知度も高く、意識もつくため良いと考える。

(後藤委員) 刑法犯は、子どもに限った件数ではないため、交通事故件数がよいと考える。

(布施委員) 成果指標の考え方について、現在件数で計っているが、今後少子化が進むにつれて母数が減るため、自然と発生件数が減少すると考える。件数で計るのではなく、対象となる子ども、対象者数の件数の比率も併せて示さないといけないの

では。

(石井委員) 子どもたちが守られている感じがあるかどうかの目標があるとしたら、日々の生活において一番身近な見守り隊が良いと考える。

(園田副会長) どちらかを選択するということであれば交通事故である。理由として、刑法犯は当該指標では誤差が多すぎてデータとして使えない可能性がある。また、犯罪は治安が良いか悪いかを計るものであり、子どもの安全・安心という点では、因果関係が成立しない気がする。

もう一つの視点として、安全などを全て網羅できる指標がないとしたときに、どれを優先順位とするかとした場合、交通事故ではないかと考える。交通事故を減らすために様々な事業を進め、その結果として件数が減ったというように関連づけていくしないため、あまり細かい事業を指標として挙げてしまうと逆に全体像が見えにくくなる。

(片山会長) 基本目標 10 の成果指標について、委員から様々な意見がでたが、意見が多かった交通安全件数を指標と扱うこととする。

(仮称) 次期相模原市子ども応援プラン イ掲載事業及び「主な取組」について、資料 2 を基に事務局より説明した。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(野口委員) 選ばれた 3 つの事業が重点事業とのことだが、扱いが変わるのか。

(事務局) 3 つ選ばれた事業については、応援プラン P49 のように 3 つの事業に記載される。今までは全事業を一覧として列挙していた。

(仮称) 次期相模原市子ども応援プラン ウ 計画書素案について、資料 3・4 を基に事務局から説明をした。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

(園田副会長) 意見書はレイアウトについてか。または記載内容などにも踏み込んで良いのか。

(事務局) 全てである。

3 その他

なし

4 閉会

事務局より、次回は 9 月 27 日 (金) に開催することを伝え、閉会した。

相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

番号	氏名	役職・推薦団体	出欠
1	あさひな たろう 朝比奈 太郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
2	あんざい しゅんいち 安西 俊一	相模原市学童保育連絡協議会	出席
3	いしい やすこ 石井 康子	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出席
4	おしだ ゆうすけ 押田 裕輔	公募市民	欠席
5	かたやま ともこ ◎片山 知子	和泉短期大学児童福祉学科 特命教授	出席
6	かわい たけひこ 川井 赳彦	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	欠席
7	ごとう りょう 後藤 亮	公募市民	出席
8	ささみね ゆか 笹嶺 由香	相模原市立小学校長会	出席
9	そのだ いわお ○園田 巖	東京都市大学人間科学部准教授	出席
10	たがわ つぐよ 田川 継世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
11	のぐち かずよ 野口 和代	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
12	ばば まゆみ 馬場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
13	ふせ あきよし 布施 昭愛	相模原商工会議所	出席
14	ますだ たかのり 増田 貴範	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	欠席
15	みうら ともり 三浦 友則	相模原保育室連絡協議会	出席

◎会長、○副会長